

いもう 葦毛通信



ヒメアカネ

令和2年 2月25日
豊橋市文化財センター
豊橋市松葉町3丁目1
TEL: 0532-56-6060

No. 91

1、「あいち・なごや生物多様性EXPO」に参加しました！

2020年1月11日（土）・12日（日）に名古屋国際会議場で行われた「あいち・なごや生物多様性EXPO」に参加し、葦毛湿原の大規模植生回復作業の展示を行いましたので報告します。愛知県によれば、2日間の来場者数は約7,300人でした。

11日は8時30分頃から現地でパネルの展示作業をはじめ、10時に開場しました。展示場所はイベントホールの46番のブースで、45番の豊橋市自然史博物館のブースの隣でした。

午前中はJRのウォーキングイベントの中継地になっており、大勢の観客がありました。人の流れが切れず保護の会の会員と共に来場者への説明に追われる状態でした。

午後には大村愛知県知事も各ブースの展示を視察しており、愛知県指定天然記念物である葦毛湿原の大規模植生回復作業について説明しました。午後はセンチュリーホールでシンポジウムが開催され、さかなクンの基調講演があり午前中よりも来場者は少なくなりましたが、引き続き3名で来場者に説明を行



愛知の生物多様性（ステージでのオープニング）



取組み発表（葦毛湿原の大規模植生回復作業について）

いました。

展示ブースの出展者は、自然保護団体以外にも、環境省、豊橋市教育委員会のような行政、小学校、高校の生物部、大学、企業、NPO等様々な団体が参加していました。テーマも植物、動物、魚、鳥等様々な生物や自然再生の取組等多岐にわたっていました。

12日は10時に開場し、11時からはイベントホール内のステージで出展者の発表があり、葦毛湿原の大規模植生回復作業について発表を行いました（前頁写真）。

レセプションホールでは分科会①（あいち・なごやの生物多様性）、分科会②（生態系の保全・再生）、分科会③（生態系サービスの持続可能な利用）、分科会④（多様な主体の連携）の専門的な分科会があり、終了すると展示ブースの見学者が増



出展ブースでの説明



出展ブースの展示物



葦毛湿原の変遷（上段：1970年・2010年・2019年）
作業後の変化（中・下段：2010年・2013年作業直後・1～7年目）

え、大学教授等の数名の専門家が葦毛湿原のブースを訪れ説明を行いました。葦毛湿原の大規模植生回復作業については、専門家の関心は高く、肯定的な意見を多くいただきました。

16時40分からのクロージングステージでは、用意されたプラカードを持って他の出展者と共に壇上に上がり、記念撮影をしてイベントが終了しました（次頁写真）。

愛知県には行政や自然保護団体が中心となって毎年1回開催している「湿地サミット」がありますが、湿地関係以外の様々な団体と情報交換ができました。

ボランティアで参加していただいた豊橋湿原保護の会の5名の会員は、今回のイベントに参加して様々な団体の関係者と話をすることができ、横のつながりができて有意義だったと喜んでいました。貴重な体験ができたと思います。



クロージングステージでの活動紹介



クロージングステージでのフィナーレ

日本自然保護大賞2020に入選しました！

葦毛湿原の大規模植生回復作業が「日本自然保護大賞2020」に入選しました。平成29年度に続き2回目の入選になります。詳しくは日本自然保護協会のウェブサイトをご覧ください。入選証は後日送られてきますので、詳細は改めて報告させていただきます。



3、2019年度作業報告－3

1) ササ刈り作業

葦毛湿原では大規模植生回復作業が進み、日照が確保されたことによりネザサが勢力を増しているところが増えていています。ネザサの刈り取りではネザサと共にある植物にも注意して行っています。

J地点(右上写真)ではハルリンドウの発芽を促すためにヌマガヤを残し、刈払機でネザサを中心に刈り取っています。画面の奥に黄色いテープで囲まれてネザサが残っている部分がありますが、ここにはカザグルマがあるので刈り取らないようにしています。

M地点(右中写真)はハルリンドウが4,000輪以上咲くところです。すでに発芽していますので、ネザサの根元を10cmほど残して手作業で刈り取りました。手前が刈り取ったところ、その奥がヌマガヤの群落です。画面のさらに左奥にはネザサを剥ぎ取った実験区がありますが、剥ぎ取り後3年が経過してイヌノハナヒゲ等が枯れて堆積することにより、いったん衰退したハルリンドウが新たに進出するようになりました。

L地点(右下写真)は間伐して明るい森にしてミカワバイケイソウが増えたところです。ミカワバイケイソウの発芽を促すためにネザサを刈払機で刈り取っています。写真奥に見える黄色いテープで囲まれたところはカザグルマが出ているところで、木質化したツルを残すことにより順調に増えています。



J地点作業風景(2020年2月23日)



M地点作業風景(2020年2月23日)



L地点作業風景(2020年2月23日)